

4 キャリア教育に関する分野

分野目標 (学習評価における4つの観点(P.44) の注)を参考に設定しています。	年齢層別目標			年齢層別目標		
	小学生			中学生		高校生
	低学年	中学年	高学年			
ア 働く意義と職業選択	<ul style="list-style-type: none"> 働く人々の素晴らしさに気付く(生活) 家の手伝いをする中で役立つ喜びを知る(生活、道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培活動等を通して働くことの喜びと大変さ、お金の価値の重さを理解する 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働く(道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> 働くことの大切さと金銭を得ることの苦労が分かる(家庭、道徳) 働く権利と義務について理解する(社会) 働くことを通じて社会に役立っていることを理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 収入を得ることが生活の安定のために必要であることを理解する 労働と賃金ややりがいの関係について理解する(社会<公民的分野>) 勤労の意義と社会における役割、および勤労の権利と義務について理解する(社会<公民的分野>、道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> 勤労により収入を得ることが経済的自立の基盤であることを理解する 働き方によって生涯所得に大きな差が生じることを理解する(公民) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の意味を理解する(公民、家庭) 	
	自分の職業選択について主体的に考える	<ul style="list-style-type: none"> 栽培したものや製作したものを販売する活動などを通して、仕事について考える 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の長所・短所を見つけ、将来就きたい職業について考えてみる(道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> 職場体験などを通じて、勤労を実感し、情報を収集し、就きたい職業について考える(道徳) ニートやフリーターについて考える 	<ul style="list-style-type: none"> 進路選択を通じて具体的に職業選択について考える(家庭) 進学、就職などに伴う支出や収入(大学での奨学金を含む)について試算し、それを参考にして進路選択について考える 自分の就きたい職業とその社会的意義について考える(公民、家庭) 	
	労働者の権利と義務について理解し、それを生かす態度を身に付ける			<ul style="list-style-type: none"> 労働者の権利と義務について理解する(社会<公民的分野>) 	<ul style="list-style-type: none"> 労働者の権利と義務を理解し、労働条件を確認する態度を身に付ける(公民) 	
イ 生きる意欲と活力	付加価値を生み出すために様々な努力が必要であることを理解する	<ul style="list-style-type: none"> お店の人の工夫や努力に気付く(生活) 	<ul style="list-style-type: none"> 商店の人の願いを知り、様々な苦労や工夫をしていることに気付く(社会) 	<ul style="list-style-type: none"> 産業に従事する人々は、工夫や努力をしてよりよい製品を生み出していることを理解する(社会) 	<ul style="list-style-type: none"> 会社経営において付加価値を高めることの必要性を理解する 	
	付加価値の創造が経済社会発展の原動力であることを理解する			<ul style="list-style-type: none"> 模擬企業づくりなどを通じ、会社経営の仕組みや工夫、努力の必要性を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 起業に必要な知識を身に付け、新たなビジネスについて考える(商業) 	
	自らの夢を描き実現の方法を考え、実現に向けて努力する態度を身に付ける		<ul style="list-style-type: none"> 自らの夢を描き、実現に向けて努力する態度を身に付ける(道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの夢を描き、実現に向けて努力する態度を身に付ける(道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢や希望をもち、その実現に向け何が必要かを知り、努力する態度を身に付ける(道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> 将来の夢を実現するための現実的なステップや手段を考え、実践しようとする態度を身に付ける(家庭)

D キャリア教育に関する分野

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指針計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

1 金融教育のねらいと基本的性格
2 金融教育の目標と方法
3 金融教育を支援する関係機関等の活動
4 金融教育の指針計画の作成と実施に向けて
5 小学校における金融教育
6 中学校における金融教育
7 高等学校における金融教育

4 キャリア教育に関する分野（つづき）

分野目標 (学習評価における4つの観点(P.44) の注)を参考に設定しています。)	年齢層別目標			年齢層別目標	
	低学年	小学生 中学年	高学年	中学生	高校生
	D ウ キャリア教育に関する分野 社会への感謝と貢献	社会との様々なつながりを理解し、ルールを守り、他人に感謝する心を養う	<ul style="list-style-type: none"> ○約束を守ることの大切さに気付く(道徳) ○生活を支えている人々に尊敬と感謝の気持ちをもつ(道徳) ○きまりを守ることの大切さを理解し、実践する(社会、道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○法やきまりを守る意識をもち、実践する(道徳) 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活を支えてくれる対象に幅広く視野を広げ(保護者、社会、海外、自然環境等)、感謝の気持ちをもつ ○法やきまりを守ることと社会の秩序の関係について理解し、実践する(社会<公民的分野>、道徳、特別活動)
よりよい社会を築くためにみんなで協力することの意味を理解し、何ができるかを考え実行する態度を養う		<ul style="list-style-type: none"> ○友だちと協力して活動しようとする(生活、道徳) ○家の手伝いや係活動を通じて自分の役割を考える(生活、道徳) ○自分の仕事に責任をもち、最後までやりとげる態度を養う(道徳) ○安全や健康を守る人々の働きを理解し、協力しようとする気持ちをもつ(社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○みんなで協力して働くことの大切さを理解し、実践する(家庭、道徳) ○地域や社会のための活動(ボランティア等)の存在や内容を知り、または体験することを通じてその意義に気付く(道徳) ○自分のお金の使い方が社会や環境に与える影響について考える(家庭) ○実社会の様々な分野で働く人々が自分たちの生活に重要な役割を果たしていることを社会の一員として考え、協力しようとする気持ちをもつ(社会) 	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会やよりよい社会を築くために必要なことを考え、実践しようとする(社会<公民的分野>、技術・家庭<家庭分野>) ○社会貢献の様々な在り方(勤労、ボランティア、寄付等)について考え、実践する態度を身に付ける(道徳) ○個人々の消費や支出の行動が社会に与える影響について考え、その影響を踏まえて行動する態度を身に付ける(社会<公民的分野>、技術・家庭<家庭分野>) 	<ul style="list-style-type: none"> ○持続可能な社会やよりよい社会を展望し、それに向けて必要なことを考え実践しようとする(公民、家庭) ○よりよい社会の実現に向けたお金の使い方をしようとする(家庭) ○企業の社会的責任と社会貢献の在り方について、自分の職業選択と関連付けて考える(公民、商業)

(注)「学習評価における4つの観点」とは、「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」、「知識・理解」をさす。

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指針の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料

1 金融教育のねらいと基本的性格

2 金融教育の目標と方法

3 金融教育を支援する関係機関等の活動

4 金融教育の指針の作成と実施に向けて

5 小学校における金融教育

6 中学校における金融教育

7 高等学校における金融教育

資料